

小山市事務事業評価シート

令和3年度版

No. 17

1. 基本情報										3. Check - 評価 -											
<1> 事業・業務名		小山市コミュニティバス整備事業				<2> 事業・業務の別		事業		実績評価		<24> 事務事業を実施する目的や対象は妥当か?		1. 妥当である							
<3> 選定基準		③ その他				<4> 継続業務・新規業務の別		継続業務				<25> 事務事業を実施する手段や実施手法は妥当か?		1. 妥当である							
<5> 総合計画基本計画での体系		大項目		4 暮らしやすく住み続けたい 地域の活力を生かしたまちづくり		<6> 担当部(局)		都市整備部				<26> 事務事業の実施に対する市民ニーズはあるか?		1. 増大している							
		中項目		4-2 みんなの暮らしを支える生活基盤整備		<7> 担当所属		都市計画課				<27> 今後も市が実施する事務事業として妥当か?		1. 妥当である							
		小項目		4-2-3 交通体系		<8> 担当係等		都市交通推進室 新交通・コミュニティバス推進係		<28> 事務事業の成果の向上の余地はあるか?		1. 向上の余地はある									
<9> 根拠法令・計画等		地域公共交通の活性化及び再生に関する法律		<10> 関連・類似事業						<29> 総合計画基本計画施策への貢献度は大きいのか?		1. 大きい									
<11> 会計		一般		会計		<12> 予算科目		8 款 4 項 1 目		<30> 事務事業の効率の向上の余地はあるか?		1. 向上の余地はある									
<13> 実施期間		年度 ~ 年度		<14> 全体事業費				千円		<31> 民間への外部化(民営化・業務委託等)は可能か?		4. 実施済み									
<15> 実施手法		全部委託		「その他」の場合 (運行委託)						<32> 受益者負担の水準は妥当だと考えられるか?		2. 検討を要する									
2. Do - 実施 -										<33> 総合評価		2. 改善の余地はある		理由 計画目標を達成するために利用者の意見を聴取し、計画に反映することでコミュニティバスの利便性向上を図る。							
<16> 事業・業務の概要		小山市コミュニティバス(路線バス14路線及びデマンドバス5エリア)の運行整備を行う。								事業の改善		4. Action - 改善 -		<34> 事業の課題 事業の改善点		・コミュニティバス事業は、毎年増便やダイヤ改正、ルートの見直しなど利便性の向上を図っており、利用者も順調に増加している。それにもかかわらず、総合計画の市民意向調査結果は、満足度2.8(7次)から、全項目中最下位の満足度2.68(8次)と低下しており、市民ニーズに対応しきれていない。 ・交通調査(パーソントリップ調査)の結果から、子育て世代(特に女性)は送迎に時間を使っていることが明らかになっている。 ・交通調査の結果から、バスの不便な地域にお住いの高齢者は外出率が低いことが明らかになっている。 →これらの課題を解決するためには、より一層おーバスの増便やダイヤ改正を行い、利便性を向上させていく必要がある。					
目的		<17> 事業・業務の目的 市街地は往復運行の路線バスを運行し便数を確保し、郊外は予約制区域内運行のデマンドバスを運行し、これらを乗継拠点で結ぶことで交通空白地域の解消とおーバスの利便性の向上を図る。マイカー無しでも便利な移動サービスと豊かな生活を小山市民、小山への来訪者に提供する。 <18> 事業・業務の対象 ①自家用車を持たない若者②高齢者などの交通弱者③公共施設、医療機関、買い物等商業施設への移動など生活の足として利用する市民④通勤通学者⑤小山市への来訪者																			
手段		<19> 令和2年度の活動内容 路線バス14路線・デマンドバス5エリアの運行継続、令和2年度の改正①ハーヴェストウォーク線の新規運行により約21万人/年の利用があった。②新市民病院線は運行時間を8時から18時45分であったものを6時30分から22時10分までに延長、平日8往復(休日6往復)から、平日14往復(休日12往復)に増便③羽川線の車両を27人乗りから54人乗りに大型化・ダイヤ改正④大谷中央線のダイヤ改正⑤土塔平成通り線の延伸及びダイヤ改正⑥全線共通定期券「おーバスnoroca」利用促進																			
<20> 活動指標(活動した量や実績)		指標名		単位		令和元年度		令和2年度										令和3年度		令和4年度	
		ダイヤ改正数		路線		-		2		2		5		3		2					
		バス利用促進広報活動実施回数		回		-		3		2		2		2		2					
成果		<21> 事業・業務の成果 コミュニティバスの利用者数は増加(8,225人/年)・路線便数の増加(平日64便、休日82便) コロナ禍で全国的にバスの利用者は減少傾向の中で利用者が増加しているのは稀である。その結果、おーバス利用促進の取り組みが評価され、「2020年度グッドデザイン賞」、「令和2年度JCOMプロジェクト賞」、「EST交通環境大賞優秀賞」を受賞								事業の方向性		<35> 1次評価		所属長		1. 拡大		理由 小山市民のバスを使う人の割合は0.3%と他の市町と比較して非常に低い水準となっている。また、高齢者の自家用車の割合が増加しており、自家用車以外の代替交通手段が無くならない。小山市内全域にコミュニティバス公共交通網はあるが1時間に1本以上間隔があいており決して利便性の高い公共交通機関とは言えない。コンパクト+ネットワークの実現には更なる公共交通網の充実が必要である。			
<22> 成果指標(活動の成果の量や実績)		指標名		単位		令和元年度		令和2年度				令和3年度		令和4年度							
		利用者数		万人		-		73				75		74		80		85			
		1日当たりの運行距離		km		-		2,138		2,350		2,383		2,500		2,650					
資源		<23> 投入指標(投入するお金の量)		コスト実績		単位		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		事業の計画		<37> 実施計画・今後の方針		令和3年度はおーバス高岳線増便(27便)・ダイヤ改正(高岳線、小山駅東口循環線、小山駅東口・新市民病院循環線)、おーバスnorocaの関東自動車路線への拡大・電子化(スマホ)・おーラジカード機能の付与、モビリティ・マネジメント(バス利用促進広報活動)の実施(一般向け、学生向け)、バスとタクシーとの連携事業各種施策を展開して、①おーバス(路線バス)を圧倒的に便利なバスへ ②タクシー、デマンドバスとの連携 ③生活サービスとの連携により、まちや地域全体の活性化を目指してまいります。	
				千円		計画(予算) 実績(決算)		計画(予算) 実績(決算)		計画(予算) 実績(決算)		計画(予算) 実績(決算)									
		事業費等		千円		158,324 158,278		219,396 209,269		176,716 176,716		155,320 155,320									
		財源内訳		千円																	
		国・県補助金		千円																	
		地方債		千円																	
		その他		千円																	
		一般財源		千円		137,000 136,954		198,000 187,873		155,320 155,320		155,320 155,320									
		人件費		千円		21,324 21,324		21,396 21,396		21,396 21,396		21,396 21,396									
		正職員		千円 × 人役		7,108 × 3.0 7,108 × 3.0		7,132 × 3.0 7,132 × 3.0		7,132 × 3.0 7,132 × 3.0		7,132 × 3.0 7,132 × 3.0									
		他の職員		千円 × 人役		× ×		× ×		× ×		× ×									
		<38> 活動・成果目標		利用者数：令和3年度は80万人/年を目指す。																	